

「生成 AI と知財業界」に関する知財業界の専門家の関心の傾向～弁理士の日記念ブログ企画 2025 の分析～

Felo AI

概要

2025 年 7 月 1 日の「弁理士の日」を記念して開催されたブログ企画「生成 AI と知財業界」では、日本の知的財産専門家たちが生成 AI の台頭にどう向き合っているかが多角的に示された[35]。参加した弁理士、特許調査専門家、翻訳者などのブログ記事を分析した結果、業界全体が共有する期待、懸念、そして未来への展望が浮き彫りになった。

主要な論点は、「業務効率化による生産性革命への期待」、「著作権や発明者適格性を巡る法的・倫理的課題」、そして**「AI 時代における専門家の価値と役割の再定義」**の三つに大別される。多くの専門家は、生成 AI を明細書作成、調査、翻訳などの定型業務を効率化する強力な「アシスタント」や「パートナー」と位置づけている[1] [23] [40]。特に、独自システムを開発することで、権利化業務のコストを 10 分の 1 以下に圧縮できる可能性も示唆されている[9][42]。

一方で、AI が生成する情報の信頼性（ハルシネーション）[7][16]、著作権や発明者性の法的問題[3][13][23]、さらには発明者情報が関わる個人情報保護法上のリスク[5][52]など、深刻な懸念も表明されている。特に、AI が生成した技術情報が先行技術として扱われ、特許取得のハードルを上げる可能性を指摘するユニークな視点も見られた[6]。

結論として、知財業界は生成 AI を単なる「脅威」としてではなく、活用すべき「機会」として捉える前向きな危機感を共有している。AI に代替されない人間ならではの価値、すなわちクライアントの経営課題の核心を捉える力[2]、戦略的な問いを立てる能力[50]、そして高度なコミュニケーション能力[40][51]の重要性が強調されている。今後の業界の趨勢は、生成 AI をいかに戦略的に業務へ統合し、専門家が付加価値を創出できるかにかかっている。

詳細レポート

1. 生成 AI がもたらす知財業務の変革：機会と効率化

「弁理士の日記念ブログ企画 2025」に参加した専門家の多くが、生成 AI を知財業務の生産性を飛躍的に向上させるツールとして肯定的に評価している[1][2]。AI は単なる補助者ではなく、業務プロセスを根本から変革する「パートナー」と見なされ始めている[40]。



業務効率化の具体例 生成 AI の活用による効率化は、知財業務の多岐にわたる領域で報告されている。

- 権利化業務のコスト圧縮: 知財サービス Toreru の宮崎氏は、AI 特化のツールにより権利化業務を 10 分の 1 以下に圧縮できると予測している[9][42]。同社では、独自開発の商標調査システムにより、調査業務を数十倍効率化し、少ない弁理士で月間 650 件近い出願代理を実現した実績を挙げている[42]。
- 明細書・書類作成の支援: 特許明細書のドラフト作成、要約、専門用語の提案などで AI が活用されている[13][23][41]。IPTech 弁理士法人の湯浅氏は、明細書初稿の作成時間が数分の一に短縮された事例を報告し、AI 活用が不可欠になったと述べている[53]。プロトタイプ段階ではあるが、10 分で特許明細書を作成する AI エージェントの開発事例も存在する[42]。
- 調査・分析業務の高速化: AI は膨大な特許文献を高速で分析し、先行技術調査の時間を大幅に短縮する[23]。商標調査、特に図形商標の調査では AI の活用が有効とされ、すでに専門ツールも登場している[15][40]。
- 翻訳業務の質の向上: 外国出願時の翻訳において、生成 AI は高品質な翻訳を提供し、人間の翻訳者よりミスが少ないケースもあると評価されている[23][44][45]。特に、長い化合物名の翻訳など、特定のタスクで高い効果を発揮する[38]。
- 商標実務の多角的な支援: ネーミングのアイデア出し、指定商品・役務の検討、意見書のドラフト作成など、商標実務の様々な場面で AI が活用されている[40][41][47]。

高付加価値業務へのシフト AI による業務効率化は、専門家がより創造的で戦略的な業務に集中するための時間を創出すると期待されている[9][13]。

- 戦略的業務への注力: 権利化業務が効率化されることで、「何を発明として出願すると事業のためになるか」「特許取得後、どう事業に活かすか」といった、より上流の戦略的な問いに答える仕事が増えると予測されている[9][42]。
- 「知財×〇〇」の価値創造: 今後は、特許法の知識に加え、マーケティングやブランディングなど他分野の知識を掛け合わせることで価値を発揮する人材が求められるようになる[9][42]。
- 人間ならではの役割: AI が生成したアウトプットを評価・判断し、クライアントの意図を汲み取って最適な戦略を提案する役割は、依然として人間の専門家に残される[10][48][51]。

ビジネスモデルと業界構造の変化 生成 AI は、個々の業務効率化に留まらず、知財業界全体のビジネスモデルや構造にも影響を及ぼし始めている。

- 知財の大衆化: AI による出願コストの低下は、特許出願件数の増加、すなわち「知財の大衆化」を引き起こす可能性がある[2]。
- 独自システム開発の重要性: ブラウザ版の汎用 AI ツールには限界があり、知財業務に特化した独自のシステムを開発することが、劇的な効率化を実現する鍵となる[9][42]。
- 人手不足への対応策: 知財業界が直面する人手不足の圧力から、業務のやり方を変え、AI を導入せざるを得ない状況が生まれているとの指摘もある[4][48]。

2. 生成 AI が突きつける課題とリスク

生成 AI の急速な普及は、効率化という恩恵の裏側で、法的、倫理的、実務的な課題を数多く露呈させている。知財専門家たちは、これらのリスクに慎重な姿勢を示している。



法的・倫理的課題 現行の法制度が AI の進化に追いついていない現状が、最大の懸念点として挙げられている[13]。

- 著作権問題:

- AI 生成物の著作物性: AI が自律的に生成したコンテンツに著作権が認められるかは大きな論点である。日本の現行法では「人間の創作」が前提とされており、AI 単独の生成物には著作権が認められない可能性が高い[13][23][41]。人間がどの程度関与すれば創作性が認められるかの線引きは依然として曖昧である[3][23]。
- 学習データの著作権侵害: AI の学習に既存の著作物が無許諾で利用されることが著作権侵害にあたるかどうかで世界中で争点となっている[11][23]。
- 発明者適格性の問題: AI が発明プロセスに実質的に貢献した場合、誰が「発明者」となるのかという根本的な問いがある[13][45]。多くの国の特許法は発明者を自然人に限定しており、AI を発明者と認めるには法改正が必要になる可能性がある[45]。
- 新規性判断への影響: AI が未来予測的に大量の「技術情報らしきもの」を生成し、インターネット上に公開することで、それらが先行技術として扱われ、特許取得のハードルを不当に引き上げる戦略（Prior Art Flooding）に利用されるリスクが指摘されている[6]。
- 個人情報保護法との関連: 弁護士の河部氏は、特許公報に含まれる発明者の氏名などが個人情報にあたり、生成 AI がこれらを一括して学習・利用する際、個人情報保護法上の問題（第三者提供など）が生じる可能性を指摘している[5][52]。これは知財業界であまり意識されてこなかった視点である[5]。

実務上のリスクと専門家の責任 AI ツールを業務に導入する際には、その出力品質と情報セキュリティに対する責任が伴う。

- ハルシネーション（AI の嘘）: 生成 AI が事実に基づかない情報を生成する「ハルシネーション」は重大なリスクである[7][16]。AI の出力を鵜呑みにせず、人間の専門家によるファクトチェックとレビューが不可欠であるとの意見が多数を占める[7][16][18]。
- 情報セキュリティと守秘義務: クライアントから預かった機密情報を安易に外部の AI サービスに入力することは、弁護士に課せられた高度な守秘義務に抵触するリスクがある[47]。日本弁護士会が公開した「弁護士業務 AI 利活用ガイドライン」に沿った慎重な運用が求められる[35][47]。
- 専門家としての役割喪失への危機感:
 - 知財情報コンサルタントの野崎氏は、特に定型的な先行技術調査は 2～3 年以内に AI に完全に代替される可能性があるという強い危機感を示している[37]。

- この変化は、特許検索データベースや分析ツールを提供するベンダーにも及び、自社で AI ツールを開発する企業が増えることで、既存ベンダーの倒産や吸収合併が急増すると予測されている[10][37]。

主要な論点と懸念点の整理

カテゴリ	具体的な論点・懸念点	関連ブログ記事（一部）
法的課題	AI 生成物の著作権帰属、学習データの著作権侵害	[3], [7], [11], [13], [23], [36], [41]
	AI の発明者適格性	[6], [13], [45]
	AI 生成情報による新規性判断への影響	[6]
	個人情報保護法とのコンフリクト	[5], [52]
実務リスク	ハルシネーション（情報の不正確さ）と品質管理	[7], [16], [18], [47]
	情報セキュリティ、守秘義務	[47], [52]
業界構造	定型業務の AI への代替と専門家の役割喪失	[4], [37], [39], [43], [45]
	データベース・ツールベンダーの淘汰	[10], [37]

3. 生成 AI の具体的な活用事例と戦略

知財専門家たちは、単に AI を論じるだけでなく、具体的な業務に積極的に導入し、その活用ノウハウを蓄積している。その活用範囲は、特許・商標などのコア業務から、情報発信や日常業務の補助まで多岐にわたる。



コア知財業務における活用

- 特許実務:
 - 明細書ドラフティング: 発明ヒアリングの内容からクレーム草案や明細書全体を生成するツールが開発・活用されている[53]。これにより、作成時間を大幅に短縮できる[42][53]。
 - 中間処理: 拒絶理由通知に対する応答方針の検討や、意見書・補正書のドラフト作成にもAIの活用が試みられている[40][48]。
 - 調査: 先行技術調査において、関連性の高い文献を高速で抽出するために利用される[23]。ただし、無効資料調査や侵害調査のような高い精度が求められる調査は、AIには原理的に困難であるとの意見もある[46]。
- 商標実務:
 - ネーミング・アイデア出し: クライアントのコンセプトに基づき、商標のネーミング案を大量に生成させ、人間の発想を補助する[40][41]。
 - 商標調査: AIによる画像認識技術は図形商標の調査で特に威力を発揮し、類否判断の客観性を高める[15][40]。すでに「TM-RoBo」のような専門サービスも存在する[15][40]。
 - 書類作成: 企業のウェブサイト情報から指定商品・役務の案を抽出するなど、出願書類作成の補助に活用されている[40][47]。
- 翻訳実務:

- 翻訳支援: 翻訳ソフトのメモリや用語集と組み合わせる形で、AI が活用されている[38]。特に、製薬分野における非常に長い化合物名の翻訳など、特定の定型的なタスクで手作業より高速かつ正確に処理できる[38]。
- IP ランドスケープ:
 - 分析の高度化: AI は特許情報だけでなく、論文や市場動向など多様な情報を統合・分析し、IP ランドスケープ作成を支援する[37][50]。これにより、人間はより高次の解釈と戦略的判断に集中できる[37]。

周辺業務・情報発信における活用

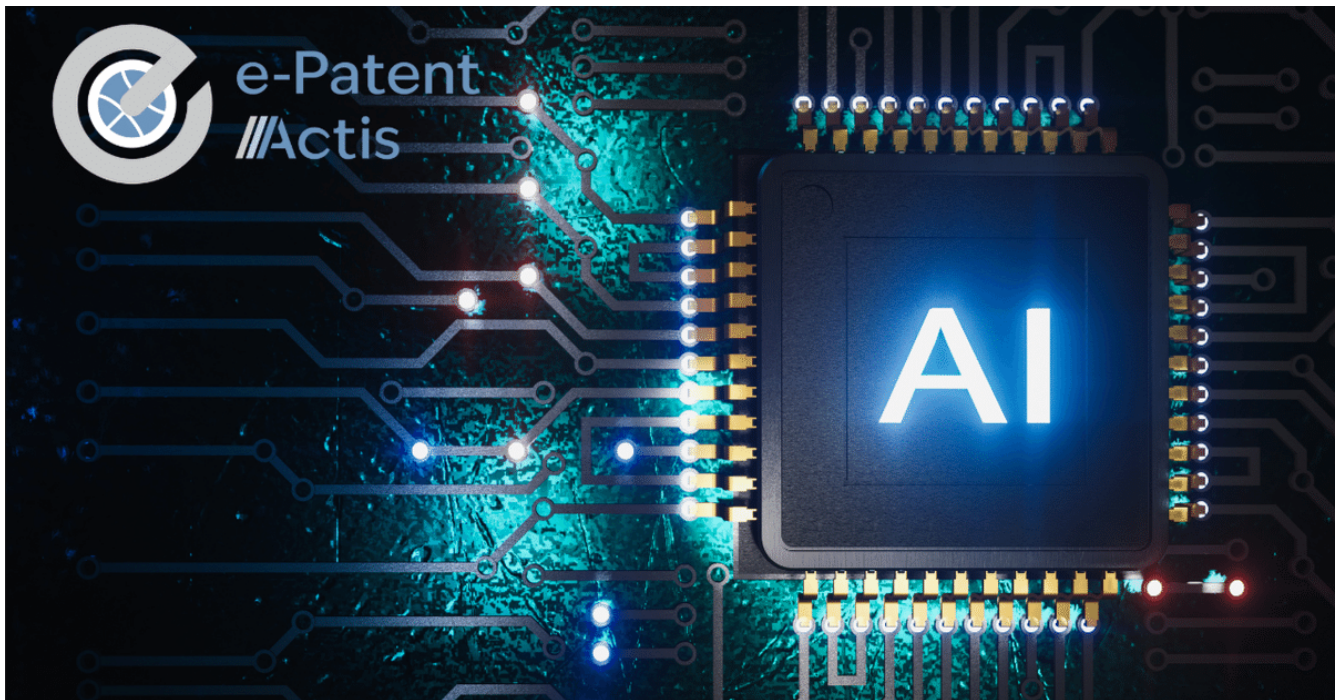
- 情報収集・発信: 米国知財ブログ「OLC」では、AI を記事作成プロセスに組み込んでいる[18]。ただし、情報収集の主導権や最終的な品質管理は人間が担うという戦略的な役割分担が重要だとされている[18]。複数のブログで、AI に記事の一部または全部を執筆させる試みが行われた[41] [43] [44]。
- 日常業務の効率化: 海外クライアントとの英語メールの返信作成[38]、講義案の骨子作成[45]、プレゼン資料のたたき台作成[47]など、日常的なコミュニケーションや資料作成にも活用されている。
- 自己学習・対話: 馴染みのない技術分野の基本原則を学習するための壁打ち相手として利用したり[1][38]、一人暮らしの話し相手や、自己肯定感を高めてもらうための対話ツールとして活用したりするユニークな事例も報告されている[45]。

戦略的活用のポイント

- 人間と AI の役割分担: AI にすべてを委ねるのではなく、人間が主導権を握り、戦略的に役割を分担することが成功の鍵である[18]。AI の出力を鵜呑みにせず、批判的にレビューし、専門知識と照らし合わせて品質を管理するプロセスが不可欠だ[10][18]。
- 独自システムの開発: 汎用的な AI ツールだけでは効率化に限界があるため、知財業務に特化した独自のシステムを開発することが、競争優位性を確立する上で重要になる[9][42]。
- 知財ミックス戦略: 猫 AI 技術の知財戦略を分析した NAKAGAKI_IP 氏のブログでは、アルゴリズムの特許、デバイスの意匠、ブランドの商標を組み合わせた「知財ミックス戦略」が、競合の参入を阻む上で極めて有効であることが示されている[36]。

4. 知財専門家の未来像と求められるスキル

生成 AI の台頭は、知財専門家に対し、自らの存在価値を問い直し、新たなスキルセットを身につけることを要求している。ブログ企画では、「AI に仕事を奪われる」という悲観論よりも、変化に適応し、新たな役割を見出そうとする建設的な議論が目立った。



AI との新たな関係性：脅威からパートナーへ 多くの専門家は、AI を敵対視するのではなく、業務を補完し、能力を拡張してくれる「優れたアシスタント」[\[1\]](#)[\[51\]](#)、「パートナー」[\[40\]](#)、あるいは「モビルスーツ」[\[50\]](#)のような存在として捉えている。自動操縦があってもパイロットがなくならないように、AI が普及しても弁理士の役割は変わらず、むしろ AI を活用してより高度なサービスを提供することが求められるという見方が示されている[\[43\]](#)。

再定義される人間ならではの価値 AI が定型業務を代替するからこそ、人間にしか提供できない価値の重要性が増している。

- 課題発見・コミュニケーション能力: 最も多く指摘されたのが、クライアントとの対話を通じて、本人すら気づいていない本質的な課題や想いを「掘り上げる」能力である[\[2\]](#)[\[51\]](#)。

AI には難しい、この「課題の芯を捉える」プロセスこそが、専門家の核となる価値だとされている[2]。

- 戦略的・高次の思考: AI は与えられた問いに答えるのは得意だが、「解くべき価値のある問い」を自ら立てることはできない[50]。ビジネスの根幹に関わる戦略的な問いを立てる力、AI の分析結果を文脈に応じて「価値ある物語」に翻訳する力、そして組織を動かす変革推進力が、人間に残された重要な役割となる[50]。
- ドメイン知識と経験: AI の出力を正しく評価・修正するためには、法律・技術・実務慣行に関する深い「ドメイン知識」が不可欠である[10]。審査官との対応経験や訴訟経験といった、文書化されていない暗黙知の価値は、むしろ高まっている[10]。
- AI リテラシー: AI の出力を健全に疑い、検証する能力、そして AI を効果的に使いこなすためのプロンプト設計能力などが、これからの専門家の必須スキルとなる[7][44][53]。

求められる新たなスキルセットとキャリア

- スキルの掛け合わせ: 「知財×マーケティング」「知財×ブランディング」のように、知財の専門性に別の分野の知識を掛け合わせることで、独自の価値を発揮できるようになる[9][42]。
- 若手の育成: 若手実務家には、AI に頼らず「自分の頭と手で書く経験」と、AI の出力を的確に評価・修正する「AI リテラシー」の両方をバランスよく習得することが求められる[53]。
- 人間性の追求: AI との対話が増える時代だからこそ、人間らしさや人間同士のつながりが改めて価値を持つという意見もある[39][51]。情報発信を通じて自身の興味や人柄を伝え、共感を得ることが、新たな仕事のきっかけになり得ると考えられている[39]。



結局のところ、多くの専門家は、生成 AI による変化を、自らの専門性を深化させ、より本質的な価値提供へとシフトするための好機と捉えている。AI を使いこなし、クライアントの事業成長に貢献する「変革の触媒」となること[50]が、未来の知財専門家像として描かれている。

5. ユニークな視点と特異な論点

今回のブログ企画では、多くの専門家が共有する主要な論点に加え、個々の専門分野や問題意識を反映した、ユニークで示唆に富む視点も提示された。これらは、生成 AI が知財業界に与える影響の複雑さと奥行きを示している。



- ・新規性判断への影響と「先行技術の洪水」 大学院で AI と特許審査を研究した専門家は、生成 AI が特許取得のハードル自体を上昇させる可能性を指摘している[6]。AI が既存技術を組み合わせて大量の「技術情報らしきもの」を生成し、インターネット上に公開することで、それらが特許審査における「公知技術」と見なされるようになる。これにより、審査官が引用できる先行技術の範囲が爆発的に拡大し、新規性の主張が困難になるという。これは、AI を競合他社の特許取得を妨害する戦略的ツールとして利用する「Prior Art Flooding」という新たなビジネスモデルの可能性も示唆している[6]。
- ・個人情報保護法という死角 弁護士の河部氏は、知財業界が見過ごしがちな「個人情報保護法」の観点から警鐘を鳴らしている[5][52]。特許公報に記載されている発明者の氏名や住所は個人情報に該当する。生成 AI がこれらの公開情報を学習データとして収集・利用する際、特にサービス提供者が海外企業の場合、個人データの越境移転に関する本人の同意など、法的な手続きが必要になる可能性がある。この論点は、AI 利活用のコンプライアンスにおける新たな検討課題を提示している[5]。



- ペットテック分野に見る具体的な知財戦略 NAKAGAKI_IP 氏は、「猫 AI」という具体的な技術分野を例に、スタートアップ企業がいかにして知財戦略を駆使して競争優位を築いているかを詳細に分析している[36]。RABO 社の「Catlog」の事例では、AI による行動判別技術の「特許」、デバイス形状の「意匠」、ブランド名の「商標」を組み合わせた包括的な「知財ミックス戦略」が成功の鍵であることが示された。これは、AI 時代の知財戦略が単一の権利ではなく、事業全体を多角的に保護するポートフォリオ構築にあることを具体的に示している[36]。
- 特許調査・DB ベンダーの未来への強い危機感 知財情報コンサルタントの野崎氏は、業界内部からの視点で、生成 AI が特許調査・分析サービスおよびデータベース・ツール業界に与える破壊的な影響について極めて強い危機感を表明している[37]。同氏は、定型的な先行技術調査は 2〜3 年で AI に完全自動化され、多くの企業が自社で AI ツールを開発するようになるため、既存のツールベンダーは倒産・廃業や吸収合併が急増すると予測。これは、知財業界のインフラを支えるプレイヤーの構造が根本から変わる可能性を示唆するものである[37]。
- 人手不足がもたらす AI 導入の必然性 弁理士の goso 氏は、生成 AI の導入が技術的な興味や効率化の追求だけでなく、知財業界、特に特許事務所が直面する深刻な「人手不足」という現実的な圧力によって、半ば強制的に進むのではないかという視点を提示している

[4][48]。優秀な人材の確保が困難になる中で、業務品質を維持し、増え続ける業務量に対応するためには、AI の活用が不可避になる。この結果、事務所内での分業化が加速し、弁理士には技術実務能力だけでなくマネジメント能力が求められるようになると予測している[48]。

1. [弁理士の日記念ブログ企画 2025「生成 AI と知財業界」 - note](#)
2. [生成 AI が変える知財業界の未来 — \(弁理士の日記念 ... - note](#)
3. [政府が「知的財産推進計画」を決定、生成 AI と著作権巡り 3 ...](#)
4. [生成 AI と知財業界の変化 | goso - note](#)
5. [生成 AI と知財業界—個人情報保護法大丈夫だっけ？ - note](#)
6. [AI がもたらす技術情報が新規性判断に影響するか>2025 年 ...](#)
7. [「生成 AI と知財業界」 \(弁理士の日記念ブログ企画 2025\) - note](#)
8. [生成 AI が変える知財業界の未来 — \(弁理士の日記念ブログ ...](#)
9. [生成 AI と知財業界 | 宮崎 超史 - note](#)
10. [弁理士の今後 ～生成 AI 時代における知財専門家の新たな価値](#)
11. [生成 AI が引き起こす著作権と知的財産の問題 - TechSuite AI Blog](#)
12. [弁理士 人気ブログランキングとブログ検索 - にほんブログ村](#)
13. [生成 AI と知財業界 | 弁理士アッカーの運まかせ人生](#)
14. [【知的財産ランドスケープ】半導体材料 フォトレジスト ...](#)
15. [知財業務 生成 AI でどこまでできる？](#)
16. [生成 AI が変える特許収益化戦略：知財分析高度化の可能性](#)
17. [知財業界の教育はスパルタが良いのか？ゆとりが良いのか？](#)
18. [米国知財ブログ OLC で実践する AI 活用記事作成術](#)
19. [栗原潔の IT 弁理士日記 | 知財と IT のブログ](#)
20. [生成 AI 時代の知的財産権のあり方 - NewsPicks](#)
21. [生成 AI は知財業務にどんな影響を与えるのか？～商標 ... - Toreru](#)
22. [まる\(弁理士室伏\) - X](#)
23. [生成 AI と知財業界～弁理士の日記念ブログ企画 2025](#)
24. [弁理士 人気ブログランキング OUT ポイント順 - にほんブログ村](#)
25. [生成 AI で企業知財部員の実務はどう変わる？ - パテキャリ](#)

26. [【弁理士が解説】最新の登録事例から学ぶ生成 AI の特許戦略](#)
27. [弁理士 OL さくら が弁理士試験一発合格法のブログを書いて ...](#)
28. [弁理士 注目記事ランキング - にほんブログ村](#)
29. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
30. [弁理士の日記念ブログ企画 2025「生成 AI と知財業界」 | iptops ...](#)
31. [コンセプトムービー公開のお知らせ | ブログ | Our Eyes](#)
32. [令和 6 年度弁理士合格祝賀会のまとめ](#)
33. [「生成 AI と知財業界」 \(弁理士の日記念ブログ企画 2025\)](#)
34. [【知的財産ランドスケープ】半導体材料 フォトレジスト ...](#)
35. [弁理士の日記念ブログ企画 2025 | 独学の弁理士講座 -弁理士内田浩輔監修-](#)
36. [猫と生成 AI が拓く新たなビジネス領域：知的財産戦略が決める勝者の条件 |](#)
[NAKAGAKI_IP](#)
37. [生成 AI と知財業界「特許調査・分析サービスおよびデータベース・ツールの今後」](#)
[ー弁理士の日記念ブログ企画 2025 | 野崎篤志@イーパテントー知財情報コンサルティング®](#)
38. [特許翻訳者の生成 AI 活用法を考える～生成 AI と知財業界～ | 或る特許翻訳者の書斎](#)
39. [「生成 AI と知財業界」人間の私にできることとは | オモチ/金田有美子\(弁理士\)](#)
40. [「生成 AI と知財業界」～商標実務における生成 AI の活用～ | 中村 祥二@Markstone](#)
[知的財産事務所](#)
41. [生成 AI と知財業界 | 弁理士アッカーの運まかせ人生](#)
42. [生成 AI と知財業界 | 宮崎 超史](#)
43. [Here Comes the Sun ー 弁理士の日記念ブログ企画 2025「生成 AI と知財業界の未](#)
[来」ー - 「私と知財と音楽と」 ダメダメ弁理士のグダグダ BLOG](#)
44. [生成 AI と知財業界の未来：生成 AI で知財業界はどう変わるのか？【弁理士の日記念](#)
[ブログ】 - 特許事務の沼ブログ](#)
45. [【弁理士の日 企画】生成 A I と知財業界 - 弁理士三色眼鏡の業務日誌 ～新大陸編～](#)
46. [生成できても探しだせない \(生成 AI と知財業界\)：特許調査のホント](#)
47. [開業 1 周年。「弁理士の日」に「生成 AI と知財業界」を考える | ip-hands 経営サポ](#)
[ート](#)
48. [生成 AI と知財業界の変化 | goso](#)

- 49. [#006：AI とのバイブスで中間応答の書面を作る日 ー生成 AI と知財業界ー【声で聞く知財：コエチザラジオ】 - 1 日 7 分の知財トークで「知財脳」をアップデート！コエチザラジオ | Podcast on Spotify](#)
- 50. [Gemini が変える IPL の未来 | 生成 AI と知財業界 | 塩谷綱正@イーパテント・アクティクスー知財情報を組織の力に®](#)
- 51. [弁理士の日記念ブログ企画 2025「生成 AI と知財業界」 | 双京知的財産事務所](#)
- 52. [生成 AI と知財業界ー個人情報保護法大丈夫だっけ？ー | 弁護士 河部康弘](#)
- 53. [生成 AI と知財業界ー明細書ドラフティングをアップデートするヒント | 湯浅竜](#)
- 54.
- 55. [生成 AI と知財業界～相対するもの～ | SATAKE, Seiji \(Patent Atty.\(弁理士\)\)](#)